

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101397
法人名	医療法人 松岡会
事業所名	佐古グループホーム
所在地	徳島県徳島市佐古六番町12番11 (電 話) 088-611-3630
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 13日

【情報提供票より】(平成19年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤7人, 非常勤12人, 常勤換算 1階7.4人, 2階7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	520 円
	夕食	520 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低 72 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 成美会 鈴江病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは街中にあり、建物の裏には川が流れている。川に架けられている橋から次の橋まで歩くと、ほどよい散歩コースとなっている。ホームの玄関にはプランターに季節の花が植えられ、季節感が感じられる。職員は利用者の歩んでこられた時代背景や人生を深く理解しようと努力し、認知症ケアについて学習・実践し、人生の先輩がホームで充実した毎日が過ごせるよう支援している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である注意の必要な物品の保管・管理についての取り決めは明文化し、保管管理も確実にされていた。次に地域との交流では、町内会活動にも参加し、町内の一員となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員共に評価を実施する意義を十分に理解しており、ミーティング等で話し合い、全職員で自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2月に1回開催され、地域包括支援センター職員、町内会連合会会長、民生委員、地区厚生保護女性会会長、利用者、家族等で構成されている。会議はホームの行事等の報告、災害発生時等の避難方法、避難場所について協議し、意見交換等を行っている。外部評価についての説明もし、その結果、町内会に入会し地域との交流が図られている。また、学校等との交流にも協力してもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会開催時や家族の面会時等に声かけをし、意見、苦情、相談等出してもらっている。意見箱も設置している。頂いた意見等については運営者を含めて話し合い、解決し、実践している。家族には十分な結果報告がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加し、回わってくる回覧版の内容を知り、町内の行事に参加している。また、普段は町内会も協力してもらっているため、ホームとして、散歩時に道路のゴミを拾ったり、ホーム内での研修(救急法)に地域住民に参加してもらおう等し、一緒に学習し連携している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	独自の理念として、「目配り・気配り・心配り・笑顔で挨拶」を掲げ、ホームの利用者だけへのサービス理念ではなく、地域の一員として地域の中での関係を大切に、その人らしく安心して暮らし続けていくことを支える理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの玄関、ホール等に掲示し、常に意識し実践するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板で地域の活動を把握し、参加している。またホームで開催する救急法の研修会開催時に、回覧板を通して地域の方達に参加してもらっている。散歩の途中で地域の方達と笑顔で挨拶をするなど交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員共に評価を実施する意義を十分に理解しており、ミーティング等で話し合い、全職員で自己評価を作成している。また、昨年の改善課題であった地域との交流については、町内会に入会させてもらい、地域の活動に参加することができている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催され、地域包括支援センター職員、町内会連合会会長、民生委員、地区厚生保護女性会会長、利用者、家族等で構成されている。ホームの取り組み状況の報告や今後の課題について話し合っている。評価についても話し合い、前回評価の指摘事項である地域との連携について、町内会に加入し取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、介護保健についてや、火災に対応するスプリンクラー設置に向けて等、折に触れ相談し、助言をうけ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に介護記録やアルバムを見てもらっている。また、職員の異動時にはその都度説明し、健康状態の変化時には電話連絡をしている。金銭管理については少額を預かり、毎月出納帳をコピーし、年4回発行しているグループホームだより等と一緒に家族宅に送っている。しかし個々の暮らしぶりは報告がされていない。	○	利用者個人の暮らしぶり等を報告できるよう取り組んでいかれたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、家族の面会時に出た意見については真摯に受け止め、解決に向けて検討している。結果は運営推進会議で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他施設への異動は殆どない。やむを得ず離職や異動があったときは管理者またはリーダー的職員がフォローし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を段階に応じて育成するために研修の年間計画を立て、受講の機会を確保している。受講者は受講報告書を提出しており、受講できなかった職員にも内容や情報が共有できる仕組みを作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム協会に加入しており、また地域のグループホームとの相互評価事業に参加し、情報交換を通してサービスの質の向上を図る取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族には、入居の前に数回ホームに来所してもらったり、入所してしばらくは家族に頻りに面会に来てもらう等し、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の過去の生活経験に応じて、一緒に家事活動をしたり、教えてもらう場面づくりをしている。回想などでは教えてもらう立場で良い関係づくりができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通して、思いや、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意志疎通の困難な方には、本人の反応や態度から理解し、また家族に尋ねるなどして本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望や職員の気づきをケアプラン会議を通して必要な関係者と話し合い、本人がより自分らしく暮らせるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況を評価し、介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。また、利用者の状況に変化が生じた場合等には、関係者と話し合い、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内のクリニック等と医療連携体制を活かして、家族の希望を入れながら、ホームでの生活を継続している。また希望時の墓参りや買い物等の外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族にかかりつけ医の希望を聞き、受診支援をしている。希望のない場合は法人内のクリニックを利用し、専門科受診が必要な場合は職員が送迎したり、家族の協力も得て、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療者、家族には終末期の対応について、意見、要望等を聞き、職員も方針の共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者や家族の視点に立って利用者の人格を尊重した対応が見られる。記録等個人情報の取り扱いには細心の注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。居室で過ごしたい方には居室にいてもらっているが、認知症の進行も考慮し、職員からの働きかけも時にはしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の他ホームの厨房で調理をしている。しかし、届いた食事の盛り付けや片づけを一人ひとりの能力や好みに応じて、利用者と職員と一緒にやっている。家事ができる喜びを味わえる支援をしている。	○	時には、グループホームで利用者と一緒に調理を楽しむ機会を作ることを検討され取り組まれない。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添って毎日支援している。入浴の順番も公平になるよう考え、またタイミングの必要な方には柔軟に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。入浴をしない方には足浴をし清潔に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	クラブ活動やレクリエーション、リハビリ、家事活動等のアクティビティーケアのメニューを多数用意しており、その方の好みや力量を活かして、楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季折々の行事の中で利用者の希望に添って参加し、外出している。(彼岸の札所参り・花見・バラ苑のバラ鑑賞・阿波踊り見物等) 日常的にはホーム裏の川縁を散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの理念である「目配り」を心がけること等により、玄関、居室にも施錠をしないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マップ(避難場所)をスタッフルームに掲示し、常に職員に意識付けをしている。避難誘導訓練は年4回実施している。地域の方々には運営推進会議を通して協力が得られるようお願いしているが、避難訓練時のマニュアルが作成されていない。	○	避難訓練時のマニュアルを作成することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた盛り付け量や、主食、副食の形態を工夫し食べてもらい、必要な量が摂取できるよう支援している。食事・水分摂取量は記録し、医師の回診時に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感を感じられるよう環境作りに配慮されている。採光、換気、置物に気を配り、また清掃には力を注ぎ居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具(たんす・テレビ・寝具・仏壇等)を持ち込み、安心して過ごすことができるよう支援している。プライバシーを考慮し居室の入口には暖簾をかけている。		